中国における小学校段階の心理健康教育の政策と教材についての研究

―ポジティブ心理学の視点から

JIA Sifeng

1. 研究目的

本論文の目的は、中国の小学校現場において一種の心理主義化の進行として指摘できる「心理健康教育」（個人が精神的、感情的に健やかな状態を保つための知識やスキルを提供する教育活動を指す）の推進が教材においていかなるものとして理解／実践されているかを明らかにすることを通じ、中国における心理主義的教育について検討することを目的である。

2. 分析すべき論点（検証点）

本論文では中国における義務教育段階において心理健康教育がいかなるものとして理解されているか、テキスト分析を通じて、教材はどのような内容を子どもに教えているのか、心理健康教育を通じて、子どもにどのような品性を育てたいのかを明らかにしたい。

3. 研究の学術的背景および先行研究

近年、中国における学歴社会化の進行は、義務教育段階のうちから学（校）歴獲得競争という社会問題を引き起こしている。その帰結として、子どもの精神状態への悪影響が指摘されている。『2022 年青少年心理健康状況調査報告書』によると、約 14.8％の青少年にうつ病発症のリスクが認められ、『2023 年度中国精神心理健康青書』によると、小中児童生徒のうつ状態検出率は小学生 10％、中学生 30％である。さらに、同青書における「児童生徒の悩みの原因」アンケートでは、子どもの悩みで最も多いのは学習ストレスである。つまり、過度な学歴獲得競争は子どもの心身発達に一定の影響を及ぼしているといえよう。

その状況を抑えるため、中国政府は二つの政策を打ち出している。まずは基本政策としての「双減政策」である。佐野（2022）によると、2021 年7月 24 日、中国共産党と国務院（中央政府）が連名で「義務教育課程の生徒の宿題および学校外教育のさらなる負担軽減に関する意見」（以下、学習塾規制）を発表した。学習塾規制の内容を確認すると、①宿題、②塾通いの二つを減らす（「双減」）ことで、小中児童生徒の学習負担を減らして心身の健全な発達を図るとともに、教育費負担を軽減

することが目的であると明記されている。

また、教育現場においては「心理健康教育」も重視されている。「中小学校心理健康教育指導綱要」(以下綱要)によると、心理健康教育とは小中児童生徒の精神面の成長を向上させ、彼らの積極的で楽観的、健康的な心理素質を育成を目指し、生徒のポジティブな心理的資質を育成を目的としている。

心理健康教育の理論的土台となっている積極心理学(ポジティブ心理学)である。馬(2023)は2013 年から 2023 年まで中国の CSSCI(Chinese Social Sciences Citation Index)の学校心理健康教育に関する論文の文献計量調査からの分析を行い、積極心理学(ポジティブ心理学)が小中児童生徒、学校心理健康教育に関する研究の中で話題になることを指摘した。したがって、中国における小中児童生徒の心理健康教育において目指されるものは積極的な心理状態であることが推察される。橋本(2012)は、ポジティブ心理学は、人間のポジティブな力、善良さ、美徳に焦点を当てており、心理学が不利な状況下での生存と成長を理解するのに役立つだけでなく、高品質な個人および社会生活を構築する方法も学ぶことができると強調している。つまり、中国政府は現在社会において問題化された学歴競争の改善より、子どもの頑丈な心身を育てるという教育方針が先行している。しかし、綱要において、心理健康教育のナショナルカリキュラムは定められておらず、各地方や学校にて独自のカリキュラムを作成することになっている。心理健康教育におけるポジティブ心理学の位置付けを検討するには教科書の分析は不可欠だろう

2002 年、政府は『中小学校心理健康教育指導綱要』を提出し、小中学校の心理健康教育の指導方法を標準化した。2012 年、政府は「綱要」の改訂版を提出し、アプローチと方法が細分化された。例えば、改訂版では小学校の低学年(学校環境とルールの認識、学習の認識)、中学年(アイデンティティの形成、学習習慣の形成)、高学年(趣味や特長を発見させ、自主学習能力の育成)などの教育目標を細分化した。したがって、綱要の指示に従って、学年により三段階分けている教科書の分析が必要である。

そして、学歴競争が早期化した。蒋(2012)によると、中国では、1990 年代から、高等教育に対する急激な改革が行われた。すなわち、高等教育の大衆化である。中国では特に修士課程、博士課程のような高学歴を目指している学生が急増している。中国の入試制度から見ると、中学生の進路を左右する試験が「中考」である。中考は中学卒業認定試験であると同時に、高校等への入学試験も兼ねている。中考で高得点をとれば、誰でも重点校に指定された有名な高校に進学できる。半面、普通高校への進学を希望しながらも中考の点が低く、職業高等中学校など、中等職業教育機関(日本の工業高校や商業高校に相当)に入った場合、大学への進学は普通高校からと比べて難しくなる。中等職業教育機関では、高考の試験に含まれない科目を多く学ばなければならないためである。つまり、良い中学校に入るために、小学校の時の学習習慣や知識の蓄積がとても重要となる

のである。したがって、小学生の段階から精神状態に影響を与えるリスクが高い。カリキュラムの中にリスク回避するスキルを学ぶことが重要である。

心理健康教育についてはいくつかの問題点も指摘されてきた。張(2023)によると、小学校における心理健康教育では①教師がポジティブ心理学に対して認知的不十分②教育現場は形式だけの心理健康教育を行い、心理健康教育の形骸化③心理学の専門家は少ないと指摘されている。つまり、教育現場においてどのような教育を実施するについて教員の素質が重要であることが分かる。

以上より、本研究では中国における小学校段階の心理健康教育の政策と教材を対象とし、ポジティブ心理学に対してどう活用するかの分析を行う

4. 分析方法(検証方法、学術上の分析方法)および分析対象(何を一次資料とするか)

教材分析:上海科学教育出版社から出版された「小学生心理補導ガイダンス」を分析対象とする。

分析の内容はおよそ次のとおりである。

- 各章におけるポジティブ心理学の要素の抽出
- 目指される児童の精神状態の検討
- 「綱要」の内容との整合性の検討

「小学生心理補導ガイダンス」について:この教科書は「綱要」に基づき、長期にわたり学校心理健康研究に従事している心理学専門家や、心理教育領域の教育研究者及び実践者によって編集されている。

5. 論文の各章の概要

第 1 章 問題の所在、目的、リサーチクエスチョン

第 2 章 心理健康教育の政策を読解し、心理健康教育を通じて政府はどんな子どもの心身を求めることを探究する

第 3 章 心理健康教育の先行研究を整理する。

第 4 章 研究対象と方法。本研究の方法、および調査対象としての教科書の基本情報に関するデータの概要を述べる

第 5 章 データの分析。教材分析を通じて、分析内容の概要を述べて、教科書は「綱要」の中で提示した積極的な心理状態をどう理解したかを分析する

第 6 章 結論。教材分析の結果を通じて、なぜ中国政府は中国小学校現場において独特な「心理健康教育」を注目するのか、それでは「中小学校心理健康教育指導綱要」からのポジティブ心理学に基づき、心理健康教育の教科書について何を重視するのかについて明らかにしたい。これは中国社会にとっていかなることを示しているのかについて考察していく